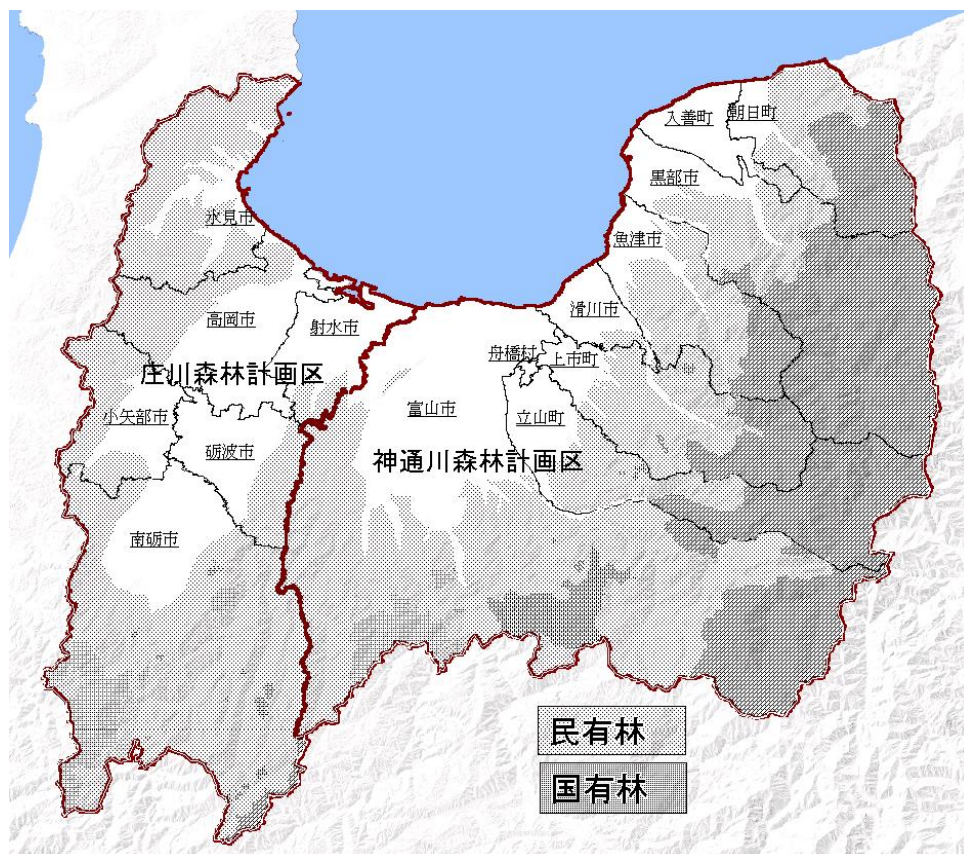


富山県の森林・林業の現況

1. 本県森林の現況

(1) 本県の森林計画区



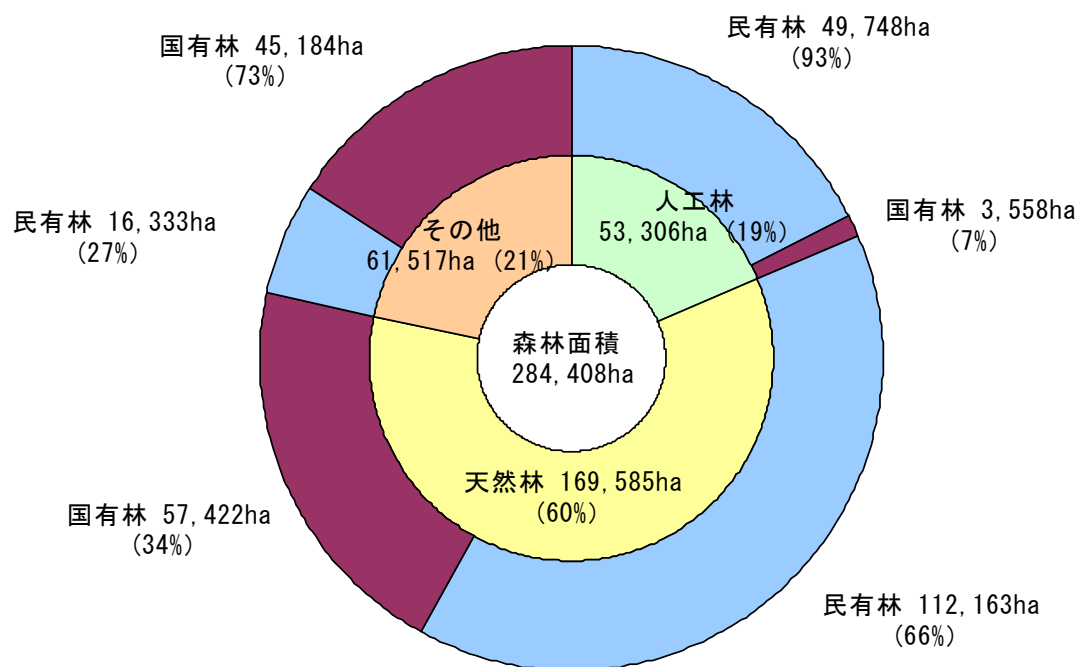
庄川森林計画区

高岡市（旧高岡市 旧福岡町）、氷見市、砺波市（旧砺波市 旧庄川町）、小矢部市、南砺市（旧城端町 旧平村 旧上平村 旧利賀村 旧井波町 旧井口村 旧福野町 旧福光町）、射水市（旧小杉町 旧大門町）

神通川森林計画区

富山市（旧富山市 旧大沢野町 旧大山町 旧八尾町 旧婦中町 旧山田村 旧細入村）、魚津市、滑川市、黒部市（旧黒部市 旧宇奈月町）、上市町、立山町、入善町、朝日町

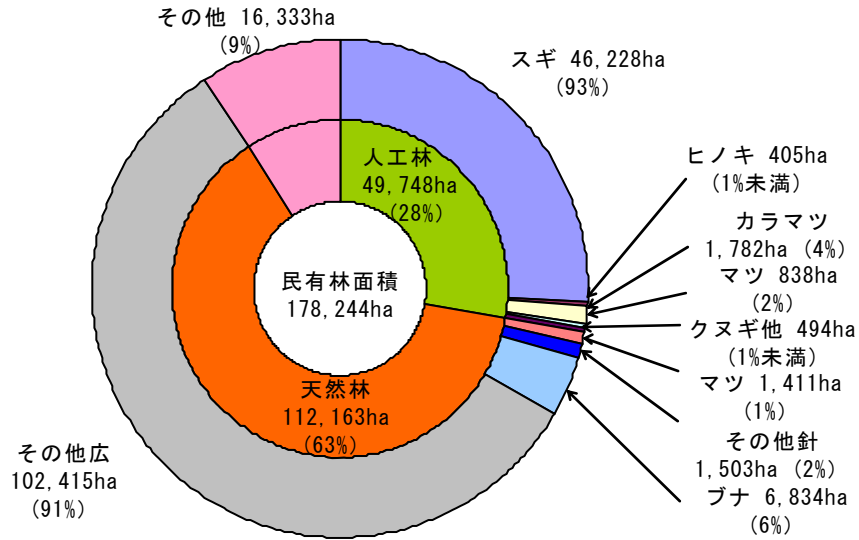
(2) 本県の森林面積



(平成 20 年 3 月 31 日現在)

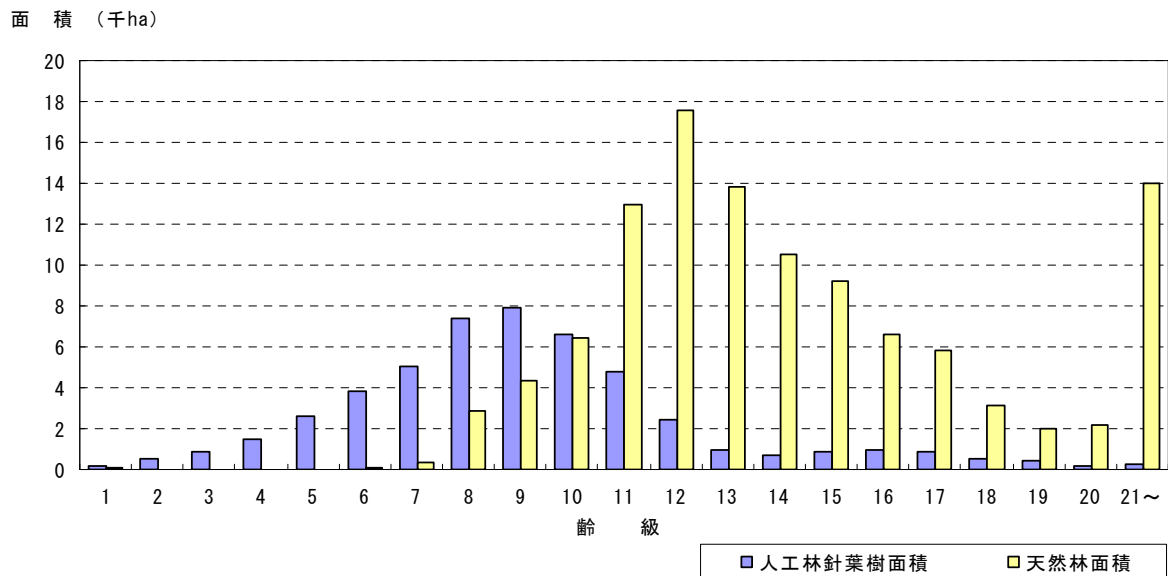
2. 本県民有林の現況

(1) 樹種別森林面積



(平成 20 年 3 月 31 日現在)

(2) 人工林・天然林齢級別の森林面積



※ 人工林は、針葉樹のみ。人工林広葉樹は面積 441ha。

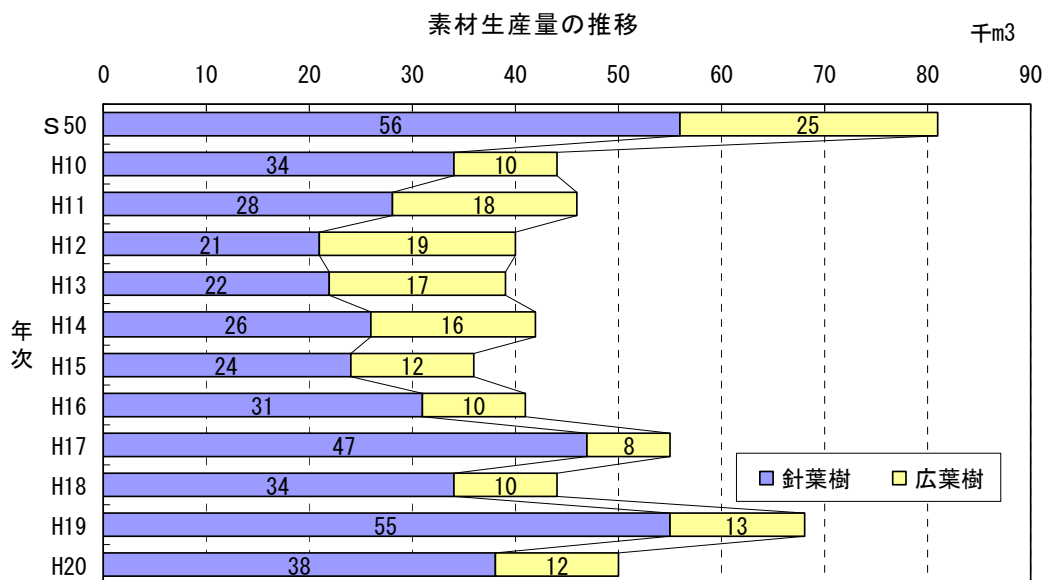
(平成 20 年 3 月 31 日現在)

3. 本県林業の現況

(1) 素材生産

素材の生産量は、昭和39年の261千m³をピークとして、近年は40～60千m³台で推移している。

今後は本格的な主伐期を迎えることになるので、100千m³を目標としている。

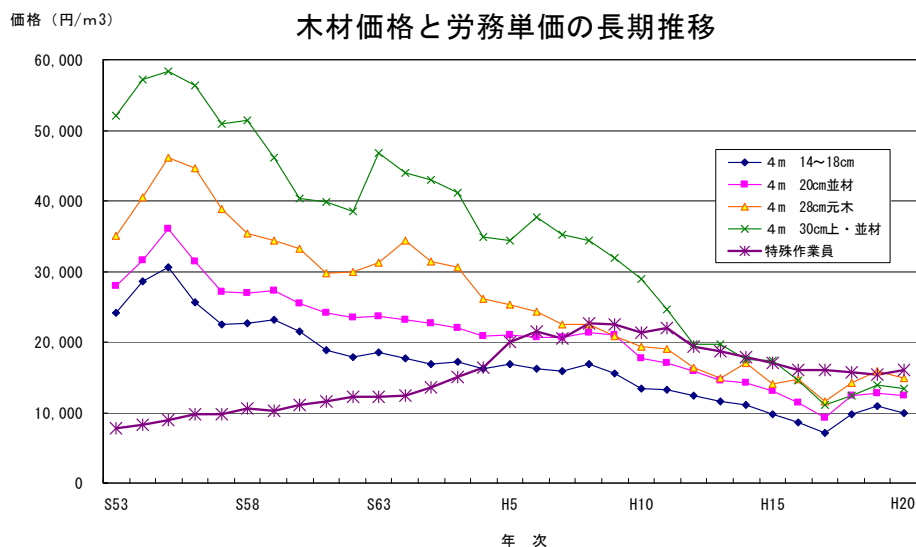


※ 農林水産省 木材統計より

(2) 木材価格と労務単価

スギ丸太の価格は昭和55年が最高値となり、その後は下落している。

一方、労務単価については、平成10年ごろまで上昇している。



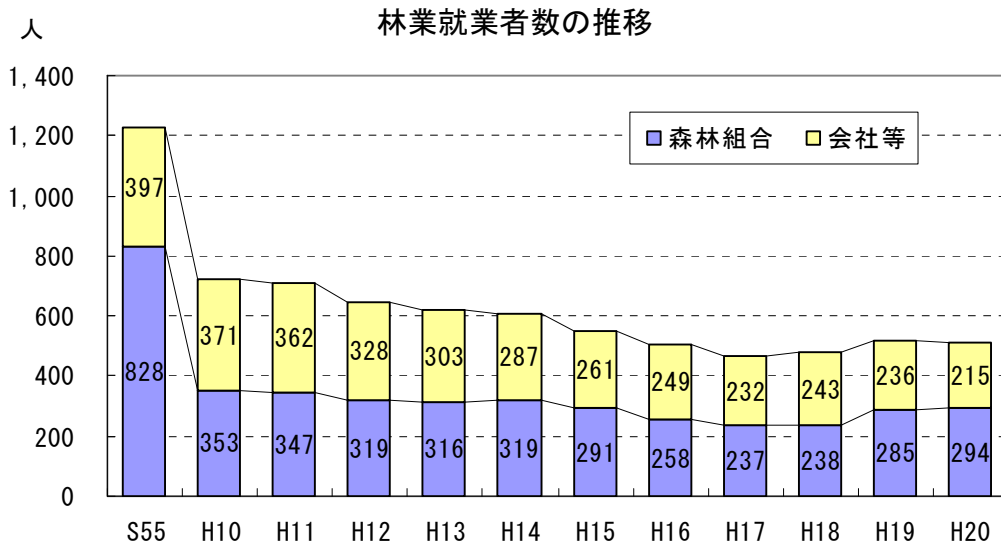
※ 木材価格は県森連 木材共販より

特殊作業員は富山県標準単価表より

(3) 林業就業者数

林業就業者数は、近年、ほぼ横ばいで推移している。

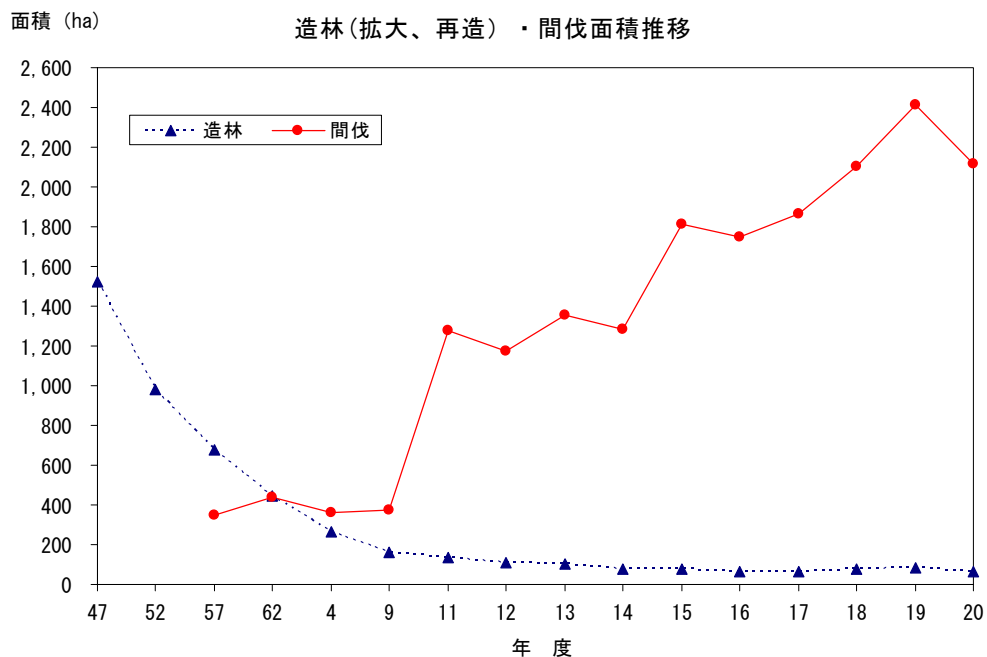
※ 林業就業者：間伐、素材生産等林業の生産に直接従事するもので、年間労働日数 30 日以上。



(4) 造林・間伐

造林面積は減少傾向にあるが、間伐面積は近年増加傾向にある。

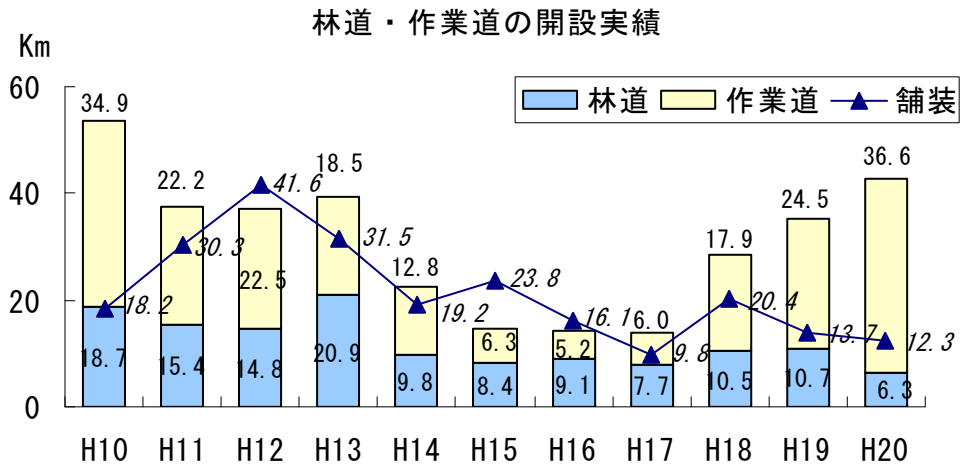
対 策	年間目標 (ha)	実績 (ha)	備 考
緊急間伐 5 ヶ年対策 (H12~16)	5, 0 0 0	7, 1 7 5	
緊急間伐 3 ヶ年対策 (H17~19)	4, 2 0 0	5, 2 8 9	
森林吸収量確保推進計画 (H19~24)	1 2, 7 0 0	4, 5 2 8	



(5) 林道

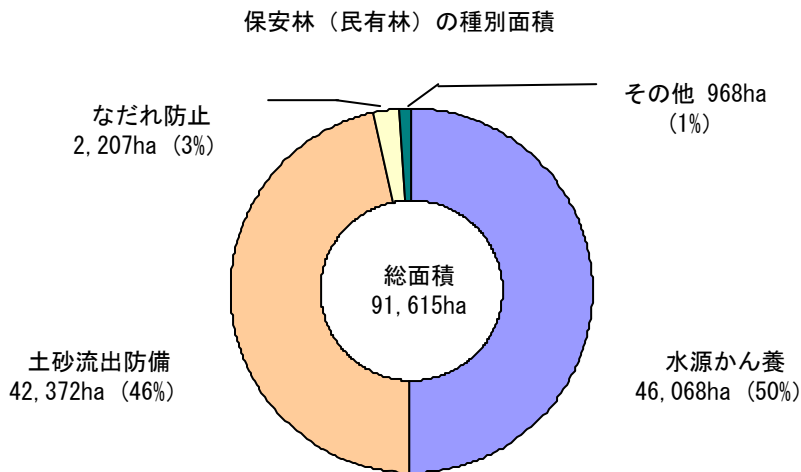
林道については、木材生産や地域の交通手段として利用されるほか、自然環境の保全や地球温暖化の防止を図る森林整備のための基盤として、欠かせない施設であり、近年の開設量は、年間10km程度で推移しており、林道密度は8.8m/ha（H20 現在）となっている。 計 画 目 標

	計画目標数値	平成20年度	達成率
林道延長（km）	2,436	1,681	69%
林道密度（m/ha）	13.6	8.8	65%



(6) 保安林

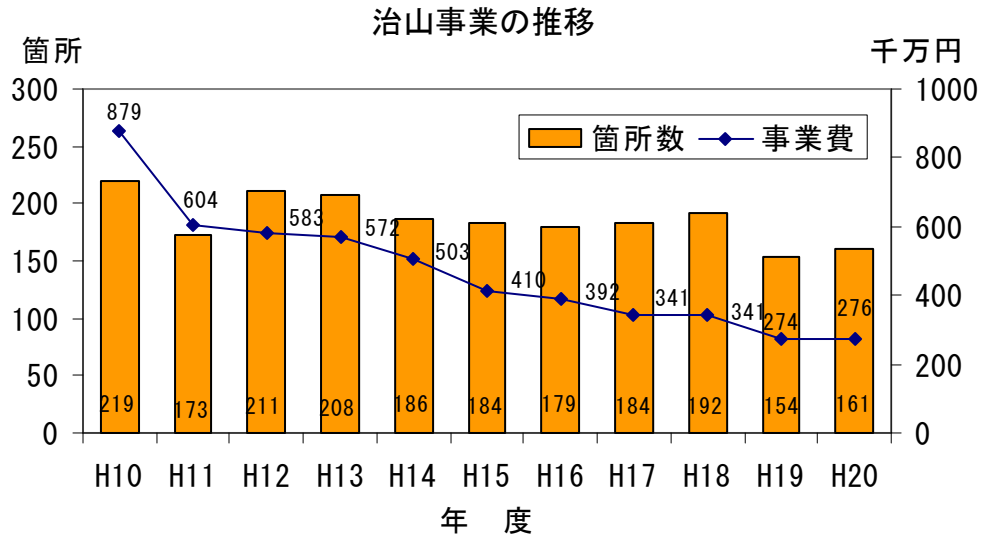
国有林を含めた県内の保安林面積は196,255ha（平成21年3月31日現在）で、県内の森林の保安林率は69%と全国第1位であるが、民有林の保安林率は51%で山梨県について全国第2位である。



（平成21年3月31日現在）

(7) 治山

治山事業については、森林整備保全事業計画に基づき、計画的な事業の推進に努めている。

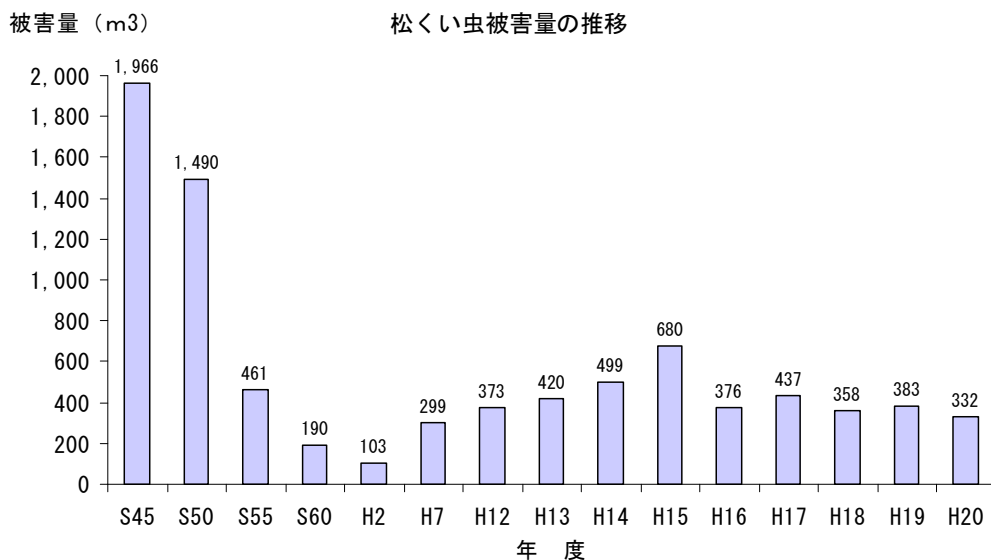


※災害は除く

(8) 森林被害

本県の松くい虫被害は、昭和38年に7,200m³のピークに達した。このため、県では特別防除（空中散布）を含めた松くい虫防除対策を総合的に進めた結果、被害は大幅に減少し、平成元年には100m³を下回るまでに至った。昨年度の被害量は332m³で、ピーク時の5%の水準となっている。

しかし、全国的には被害は依然として高い水準にあり、しかも高緯度・高標高の地区へ拡大していることから、今後とも継続して防除を実施していくことが必要である。



本県のカシノナガキクイムシによる被害は、平成14年に南砺市（旧福光町）で初めて確認されて以来、県西部から県東部へと移って拡大・奥地化しており、平成21年度は県全体では対前年比139%（32,642m³）と増加している。

一方、7年前に被害が確認された福光地域などでは、2年続けて大きく減少しており、この地域では終息傾向にあるものと思われる。

